

事例で捉える、自然環境との共生

6月5日は環境の日、6月は環境月間

事例1 小・中学校と連携した環境学習

環境対策課 電話 94-4737

国が定める特定外来生物による生態系に係る被害の防止に関する法律(通称 外来生物法)では、特定外来生物^{※1}に指定されたものについて、飼養・栽培・保管、運搬などを原則禁止しています。

市では、昨年度大田小学校と伊勢原中学校の児童・生徒を対象に、特定外来生物の講義と防除^{※2}の実践を合わせた環境学習を実施しました。今後も引き続き実施していきます。

※1 海外起源の外来種で、生態系や人の生命・健康、農林水産業へ被害を及ぼすもの恐れがあるものの中から指定
※2 被害を防ぐため、進入の防止や個体数の管理を行うこと

- アラゲマ** 原産地 北アメリカ 持込理由 ペット
- ウシガエル** 原産地 アメリカ東部・中部 持込理由 食用
- カミツキガメ** 原産地 北・中アメリカ 持込理由 ペット
- オオキンケイギク** 原産地 北アメリカ 持込理由 鑑賞・緑化

環境について学んでみませんか



オオキンケイギクを探す様子

伊勢原市オリジナルのテキストで説明しています。

環境対策課 堀川 裕亮 主任主事

渋田川沿いで伊勢原中学校の科学部6人が防除を実践しました

数珠玉の首飾りやクリスマスリースなども製作

事例2 自然を身近に感じる「れんげ祭り」

環境対策課 電話 94-4676

伊勢原市大田地区土地改良区・区域(ほ場整備地内)下谷1491付近では、4月下旬になるとレンゲやヤグルマソウ、ポピーなどが辺り一面を彩る中、鑑賞や花摘み、風船飛ばしが楽しめるイベントを実施しています。

地域に合った農地を目指して

大田地区の農地を守り、農業振興や環境保全に努めている同会の代表である亀井さんにお話を伺いました。



伊勢原市ふるさと大田を守り楽しむ会 代表 亀井 貞之 さん (85歳・下谷)

「伊勢原市ふるさと大田を守り楽しむ会」通称「大田ふるさと体感隊」が主催し、地域住民とのふれあいを目的に始まったもので、毎年多くの人が訪れています。

花々が元気に咲くように地下水位を調整し、会のメンバーが手入れを行い、ぬかるみを減らすことで、小さな子どもでも楽しめるイベントになっています。

自然と触れ合うきっかけに 花摘みのほか、珍しい生き物を見つけてもらうこともできます。近年では、子どもたちが田んぼの中に入り、生き物と触れ合う機会が少ないように感じます。

さまざまなことから農業に興味を持ってもらい、県内でも有数の水田地帯が、後世にも受け継がれてほしいですね。



摘み取りを楽しんでいる親子



可憐に咲くレンゲの花
この排水設備は、節水も兼ねています。

事例3 ナラ枯れ被害、現状と対策

環境対策課 電話 94-4676

ふと遠くの方を見ると、新緑の時期にも関わらず、広範囲に渡り赤褐色が広がっており、違和感を覚えたことはありませんか。

この原因は「ナラ枯れ」にあります。コナラやミスナラなどブナ科の樹木がナラ菌という病原菌に感染し、集団的に枯れてしまうもので、カシナガカキウム(通称 カシナガ)という虫が媒介となり引き起こしています。県内では、平成29(2017)年に箱根町などで初めて確認され、市内でも急激に増加しています。

この虫は羽化後、6月~7月ごろになると繁殖のため、樹木の幹に直径約2mmの穴をあけて樹木内に侵入します。このとき、雌がもつ菌のうという器官からナラ菌が入り、この菌の作用で樹木の水を吸い上げる機能が阻害され、枯死に至る場合があります。

被害に遭った樹木の根本には「フラス」が堆積し、夏場でも葉が赤褐色に変色します。

*木くずや虫の排泄物が混ざり合った粉状のもの



被害に遭った木々(写真右下)



カシナガカキウムシの雌
提供 県自然環境保全センター

フラスが堆積した樹木の根本

被害を食い止めるため、今できること

樹木の植栽や間伐、企業や団体が取り組む森林活動への支援などを行っており、ナラ枯れ被害に遭っている樹木の防除もしている市森林組合の岡田事業課長にナラ枯れに関する質問に答えいただきました。



伊勢原市森林組合 事業課長 岡田 孝彦 さん(46歳)

どのような樹木が被害に遭っていますか
ナラ菌やシイ・カシ類の樹木で起きており、中でも高齢化・大径木化したものに被害が多く確認されています。

市内でもコナラやクスギ、シイが多く生育しているため広がっています。近年では、山中だけでなく市街地でも被害が確認されています。

ただし、カシナガが樹木に侵入しても、全てが枯れるわけではなく、コナラで3割~5割、ミスナラで5割程度が枯れるといわれています。

被害が増えることでのような影響がありますか
枯れたことによる倒木や枝の落下といった人的被害と住宅や道路、電線などへの被害が発生する恐れもあります。

状況に応じ、伐採するなど適切な対応が必要になります。
被害を減らすために必要なことは何ですか
薪や炭などの需要が減ったことで、里山や森林が放置されるようになり、巨木化したことが原因の一つとされています。

日本に古来より生息していたカシナガを根絶することは、膨大なコストをかけても極めて困難であり、森林生態系の構成種として一定の役割を担っていると考えられているため、根絶することは適当ではないとされています。

しかし、伐採しても中にいるカシナガは生きています。伐採した木材は持ち出さず、羽化の前(10月~翌年の5月前半まで)に、くん蒸^{※1}や破砕^{※2}をすることで、さらなる被害を防ぐことができます。

里地・里山を健全に保つためにも萌芽更新^{※3}や間伐をするなど、きちんと人が管理しなくてはなりません。そして、伐採した木材を有効に利用するなど、循環する仕組みづくりが必要です。

*1 薬剤で燻して殺虫すること
*2 樹木の伐採後、残された根株から出る芽を育てることで森林の再生を図る方法

伊勢原市森林組合 技術補 杉本 直一 さん (38歳・三ノ宮)

シートは生分解性フィルムで、放置しても微生物が分解します。

ナラ枯れを見つけたときは
被害に遭った樹木の対応は、基本的に土地所有者が行うこととなります。市街地など、倒木してしまったり大きな被害が出てしまう場合は特に注意が必要です。見つけた場合は、担当や湘南地域農政総合センター森林課(電話 22-2711)へご連絡ください。

伊勢原産木材の活用「みんなのベンチ」
皆さんにとって思い入れのある公園や担当が管理する緑地にベンチを寄附してみませんか。金額など詳しくは担当へ。
田んぼ公園 探鳥会・みんなのベンチ(電話 94-4759)



林業の支援や間伐材の利活用などに役立ちます

ナラ枯れ対策の流れ(伐倒くん蒸)



1 枯死した樹木を伐採

2 薬剤が浸透しやすいうちに切断

3 液体の薬剤を散布

4 シートを被せ、約2週間かけて殺虫

自然とともに生きていくために

豊かな自然を未来に残すため、私たちにできることを紹介します。

自然が持つ役割を知る
理解を深めることが自然と共生していくための第一歩です。

森林の役割
水源のかん養
雨水を蓄え、ゆっくりと川へ流すことにより濁水、洪水を防ぐことができます。

土砂崩れなどの災害防止
樹木の根が土壌を抱え、落ち葉や下草が表土の侵食を抑えることで、土砂が流出することを防ぐことができます。

イベントに参加する
野生動物や植物の生息域は環境によって変化します。生態を知ること、環境を知ることにつながります。

自然を観察 探鳥会
グリーン・インストラクターと一緒に、野鳥や草花を観察します。今月の開催予定については6面に掲載しています。

木材製品を購入する
森林の荒廃は、木材が利用されず、放置されることが原因の一つとされています。

伊勢原産木材の活用「みんなのベンチ」
皆さんにとって思い入れのある公園や担当が管理する緑地にベンチを寄附してみませんか。金額など詳しくは担当へ。

田んぼ公園 探鳥会・みんなのベンチ(電話 94-4759)

令和2年度に鈴川で行われた探鳥会。水鳥を観察しました



令和2年度に鈴川で行われた探鳥会。水鳥を観察しました